

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

8月の定例会。

8月は、例年の通り夏休みです。

東京オリンピックの歴史。

- (1) 1940年 東京オリンピック（「まぼろしの」と称されます）
「紀元二千六百年記念」として企画され、支那事変（日中戦争）の影響から中止に。
- (2) 1964年 東京オリンピック
アジア初のオリンピック。参加国94。
選手村の総料理長のひとりとして、帝国ホテル・総料理長の村上信夫。
- (3) 2020年 東京オリンピック・パラリンピック
参加国と地域は、200以上ですが、新型コロナウイルスで1年延期。
選手村の食事を取り仕切る「顧問」が、三國清三です。

三國清三（きよみ）。

昭和29年、北海道・増毛町の漁村に生まれました。
日本最北端の酒蔵「国稀」のあるところ、高倉健の映画
「駅・ステーション」の舞台、ロケ地になりました。
中学を卒業した三國は、札幌に出ます。
初めて食べたトンカツの美味さに感激して、札幌グランドホテルの厨房に入ります。
札幌パークホテルと並ぶ、北海道の名門ホテルです。
配置されたのは、「鍋屋」と呼ばれた鍋の洗い場。
18歳のとき、総料理長・斉藤慶一に紹介状を書いても
らい、憧れの東京の帝国ホテルに移ります。
もちろん「鍋屋」です。料理はさせてもらえません。
20歳のとき、総料理長の村上信夫に呼ばれます。

（写真の右が村上、左が三國）

「おい、三國君。スイスに行ってこい」

駐スイス大使の専属料理人という大役で、帝国ホテル350人の料理人の中から大抜擢
でした。大使の奥様は「いくら何でも若すぎるのではないですか」と反対したそうです。
何しろ三國は大使の長男と同年。そのとき、村上は言います。

「三國なら大丈夫です。私が責任を持ちます」

スイスに発つ間際、村上から「無駄遣いするなよ」と言い渡されます。節約して金を貯
めろという意味ではない。無一文になってもいいから、節約した金を、腕と頭と舌に惜
しみなく投資して、本場の料理の真髄を体に染み込ませてこいという「檄」でした。

三國は大使付きの任期が開けたあとも、フランスの名店で修行を続けます。

